

貴社 ご担当者 様

材料発注の AI活用のご提案

事前ヒアリング結果の整理と、段階的な効率化のロードマップ

Ai-biz行政書士事務所

行政書士 岡田春陽

2026年7月28日

材料発注のAI活用のご提案

このたびは事前ヒアリングにご協力いただき、誠にありがとうございました。

ご回答いただいた内容をもとに、現在の業務課題を整理し、AI活用による段階的な効率化の道筋をまとめました。研修内容のすり合わせの材料としてご覧いただければ幸いです。

本書は、研修当日の冒頭でご回答内容をふりかえる資料も兼ねています。ご回答から時間が経っている場合もございますので、現在の状況と合っているかを確認しながら進めてまいります。

1. ヒアリングの概要

対象業務	材料の発注・数量の拾い出し（改修工事）
ご回答者	発注業務 ご担当者様（現場での作業・施工をご担当）
実施方法	AIヒアリング（事前ヒアリングくん・建設業用）
ご回答日	2026年7月22日
現在のIT環境	メール：Outlook系／連絡：メール・LINE・電話／見積ソフト・写真整理アプリ／ChatGPT：業務でよく利用（調べもの・情報整理）／Codex：導入済み

2. ヒアリングで見えてきた3つの課題

ご回答からは、日々の業務のなかで「材料の発注」に負担が集中している様子が読み取れました。個別に見るとばらついて見える悩みも、整理すると次の3点に集約されます。

一方で、元請さん・監督さんへの報告や連絡を文章にすることには特に時間はかかっていない、ともご回答いただきました。そのため本ご提案では、負担が集中している「材料の発注」に絞ってご提案しています。

※この3点が、現在の状況と合っているかをお聞かせください。優先して解決したい順番も、あわせてうかがえれば幸いです。

- 課題① 毎回ゼロから説明している — 発注のたびに「どの業者に・どの書式で・納品先はどこか」を一から伝え直している
- 課題② 発注が特定の方に集中している — ご自身が担当する現場だけでなく、社内の他の方の現場ぶんの発注も引き受けている
- 課題③ 改修工事は毎回ちがう — 改修工事が10割のため、過去の内容をそのまま使い回しにくく、都度ゼロから拾い出している

数字で見ると：材料の発注は1回あたり約10分、週あたり約10回。週およそ100分、月およそ7時間、年間にすると約84時間が発注作業にあてられている計算になります（ご回答時点の概算値）。

3. AI活用で「できるようになること」

すでにChatGPTを業務でお使いとのことですので、本ご提案では「AIに文章を作らせること」そのものではなく、「毎回の説明をなくすこと」に主眼を置いています。

いずれも「AIが下書きを作り、内容の確定は担当者が行う」という役割分担が前提です。

依頼メールから下書きを作る	受け取った依頼メールやご自身のメモを渡すと、発注依頼メールのドラフトが出てくる
業者ごとに振り分ける	ひとつの依頼に複数の業者が混ざっていても、業者ごとに1通ずつ分けて作る
いつもの書式で作る	宛名・品目の並べ方・納品先・希望納期・署名を、いつもの発注文の形に整える
頼み忘れを指摘する	いつも一緒に頼んでいる部材が入っていなければ、その場で確認する（足すかどうかの判断は担当者）

「どの部材をどの業者に頼むか」「この工事ならこれも一緒に」といった、これまで頭の中にあった段取りを、AIの側に覚えさせておく形になります。

4. 使用するツールと、ご準備いただくもの

すでにお持ちのもの	Codex（導入済み）／ChatGPT（業務で利用）／Outlook系メール
研修当日にお渡しするもの	発注メールづくりスキル（体験版）＝サンプルの業者・依頼が入っており、その場から試せます。事前のご準備は不要です
研修後に仕上げること	①実際の業者さんの登録 ②いつもの発注文の反映 ③AI作業用フォルダの整備
研修後にご提供をお願いしたい資料	よくお使いの業者さんと扱い部材／実際の発注メール1～2通（伏せ字で差し支えありません）

研修当日は、こちらでご用意する体験版とサンプルを使います。まず体験していただき、そのうえで御社の情報をご提供いただいて、御社専用の確定版に仕上げてまいります。

5. 段階のロードマップ

一度にすべてを導入する必要はありません。次の3段階で、無理なく広げていくことをご提案します。

STEP 1 体験する (75分)	体験版の相棒をその場で導入し、サンプルと実際のご依頼で発注メールの下書きを作ります。追加の準備や費用は要りません。
STEP 2 御社仕様の確定版にする	実際の業者さん・いつもの発注文・いつも一緒に頼む組み合わせを反映します。「この現場、これだけ」の一言で下書きが出る状態になり、担当者が変わっても同じ形で出せるようになります。
STEP 3 広げる	数量の拾い出しの補助、現場写真から報告文の作成、社内の他の方への展開へと対象を広げます。発注が特定の方に集中している状態をやわらげることを目指します。

STEP 1は、体験パックで実際に手を動かしていただく範囲です。STEP 2・3は、使ってみて効果を確認したうえでご判断いただければ十分です。

6. 効果の目安

現在、材料の発注には週およそ100分（1回約10分 × 週約10回）が使われています。仮にこの作業時間が半分になった場合、週およそ50分、年間にしておよそ42時間を他の業務にあてられる計算です。

ただし削減の度合いは、業務の内容や慣れによって変わります。体験の翌日に実際のご依頼1件の所要時間を計測し、御社の実データで効果をご確認いただく進め方をおすすめします。

現在の発注時間	週 約100分（1回約10分 × 週約10回）
年間換算	年 約84時間
削減できた時間の使い道	現場や、これまで手が回らなかった業務へ
あわせて期待できること	発注の段取りが形に残り、特定の方への集中がやわらぐ

効果を「印象」で終わらせないために、体験の翌日に実案件1件の所要時間を計測し、前後の記録を残すことをご提案します。この実測値が、社内での投資判断の材料になります。

7. 安全に使うための前提

業務での利用にあたっては、次の4点を運用ルールとして最初に決めておくことをおすすめします。

改修工事は現場ごとに条件が異なり、誤発注は工程に直接影響します。そのため今回の相棒は、数量や品番を推測せず、不足があれば止まって確認する設計にしています。

- 元請さん名・現場名・金額などは伏せ字にしてAIに読ませる
- 出力内容は担当者が確認し、品番・数量・納期・宛先を確定する（AIが担うのは下書きの作成まで。送信は行いません）
- AIに読ませる範囲は「AI作業用フォルダ」に限定し、図面・契約書などは対象外とする
- 会社としてAIを利用してよいかを社内でご確認のうえ、対象を広げる

これらの運用ルールは、そのままAI利用に関する社内規定のたたき台になります。整備をご希望の場合はご相談ください。

8. 次のステップ（75分 体験パックのご案内）

上記のSTEP 1を、実際に手を動かして体験いただく75分の体験パックをご用意しています。当日は次の4部構成で進みます。

① ふりかえりとご提案（約15分）	本ご提案書をもとに、事前ヒアリングでご回答いただいた内容をふりかえります。現在の状況と合っているかを確認しながら、あわせて安全に使うための4つの約束をご説明します。
② 相棒の導入（約10分）	発注メールづくりスキル（体験版）を、お使いのCodexに取り込みます。使い方と、ご依頼の渡し方をご説明します。
③ 体験とふりかえり（約35分）	サンプルのご依頼から、発注依頼メールの下書きを実際に作成します。続いて実際の現場のご依頼でもう1本試し、所要時間と使い勝手をその場でふりかえります。
④ 相棒を育てる／次回までのご準備（約15分）	相棒の中身をお見せしながら、その場で1つ書き換えて出力が変わることをご確認いただきます。確定版に向けてご用意いただきたい資料もご説明します。

研修は「聞いて終わり」にせず、当日中に発注メールの下書きをご自身の手で仕上げていただく構成です。

9. 当日の環境と、次回までにご用意いただくもの

当日は体験版とサンプルをこちらでご用意しますので、資料の事前準備は不要です。ご確認いただきたいのは環境面のみです。

形式・時間	対面／75分
対象	発注業務のご担当者
当日のご準備（環境のみ）	お使いの端末／ネットワーク環境／Codexが起動できる状態（ログイン済み）
次回までにご用意いただくもの	①よくお使いの業者さんと、その業者に頼む部材 ②実際の発注メール1～2通 ③いつも一緒に頼む部材の組み合わせ

①～③をご提供いただくことで、体験版が御社の業者・書きぶりに沿った確定版になります。実データが含まれる場合は、伏せ字にしたものやサンプルのもので差し支えありません。図面・契約書はいただきません。

10. 補助金・助成金について（情報提供）

2024年4月から建設業にも時間外労働の上限規制が適用され、書類作業にかかる時間の見直しは経営上の課題として位置づけられています。

研修費用やツール導入費について、活用できる可能性のある公的支援制度があります。ただし制度ごとに要件・受付期間が異なり、時点によって内容が変わりますので、ご検討の際は最新の公募要領をご確認ください。

- 人材開発支援助成金 ほか厚生労働省系の助成金（訓練関連）
- IT導入補助金・小規模事業者持続化補助金 ほか

厚生労働省系の助成金の申請代行は、社会保険労務士の業務範囲です。当事務所では制度の情報提供と、提携する社会保険労務士へのお取次ぎまでを承ります。

本ご提案は、事前ヒアリングでいただいたご回答をもとに作成しています。実際の運用に合わない点や、優先して取り組みたい業務がございましたら、お打ち合わせの際にお聞かせください。

内容を調整のうえ、当日の進め方を確定してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

Ai-biz行政書士事務所

行政書士 岡田春陽 2026年7月28日